

令和4年度

「県・市町村青少年相談担当職員研修会」

参加者アンケート結果

群馬県子ども・若者支援協議会

令和4年度 県・市町村青少年相談担当職員研修会 アンケート結果

日時 令和4年12月12日(木)

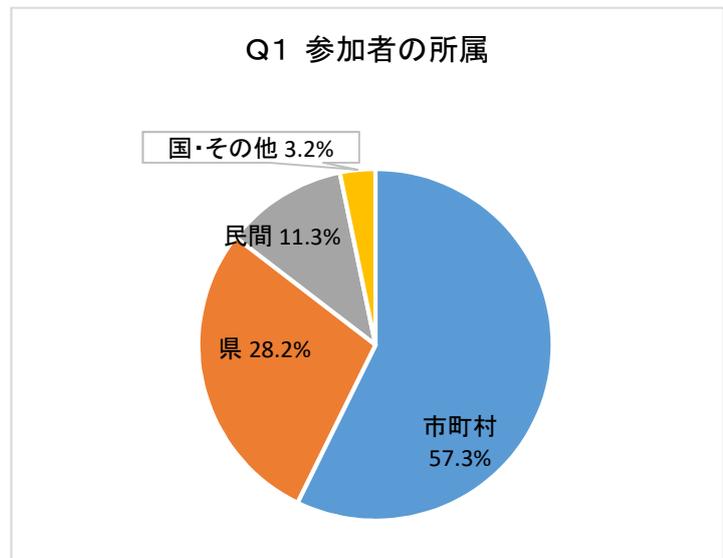
13:15~16:15

会場 県公社総合ビル

○研修参加者	140 人
○回答者	124 人
○回答率	88.6 %

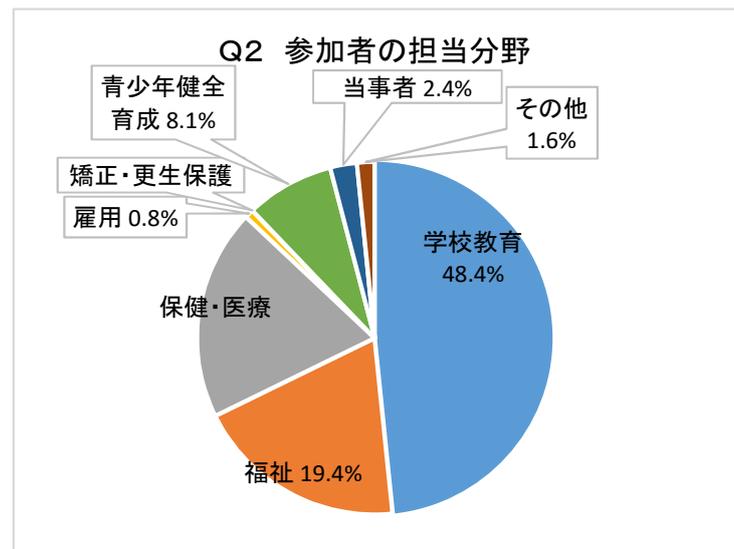
Q1 回答者の所属

	人数	割合
市町村	71	57.3%
県	35	28.2%
民間	14	11.3%
国・その他	4	3.2%
合計	124	



Q2 回答者の担当分野

	人数	割合
学校教育	60	48.4%
福祉	24	19.4%
保健・医療	24	19.4%
雇用	1	0.8%
矯正・更生保護	0	0.0%
青少年健全育成	10	8.1%
当事者	3	2.4%
その他	2	1.6%
合計	124	



Q3(1) プロローグ 概説

- ① 概説1「発達の特徴を持つ子ども・若者の社会的自立支援の全体概要について」

群馬県障害政策課精神保健室 精神保健・発達支援係 主任 岡 直矢氏

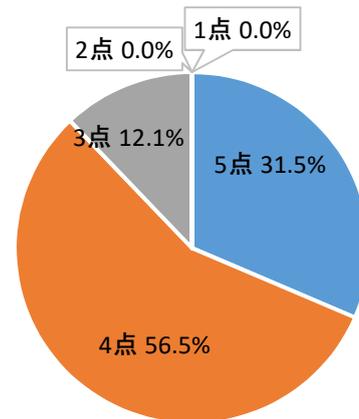
- ② 概説2「成長過程で見られる発達特性の医療診断とその対応について」

みどりクリニック 院長・医学博士 鈴木 基司氏

進行役 石川 京子氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	39	31.5%
	4点	70	56.5%
	3点	15	12.1%
	2点	0	0.0%
	1点	0	0.0%
合計		124	

Q3(1) プロローグ 満足度



○意見・感想等

1	鈴木先生のお話は以前もお聞きしたことがありましたが、今回は手元に資料があり、とてもわかりやすく勉強になりました。もっと時間をかけてうかがいたいと思いました。
2	岡先生の資料カラー刷りで欲しかったです。
3	もっと詳しくお話を聞きたい内容だった。わかりやすい資料を提示いただいたので改めて自分で考えようと思う。
4	相談体制の概要、精神・医学的な面からの考え方について知ることができた。
5	時間が短く感じられた。
6	わかりやすいお話で共感できました。もう少し時間があるといいなと感じました。
7	今までも「横のつながり」を強く意識していたが、「縦のつながり」も深く考えていくことの重要性を知った。(特に支援の必要性・時期など)
8	各方面からの声が聞けて勉強になりました。
9	みどりクリニックの鈴木先生の話をもっと詳しく聞きたかった。
10	説明がわかりやすく新たな気付きも多かった。
11	提示してくださった図がとてもわかりやすく連携のつながりが見やすいと感じました。もう少し時間があればもう少し詳しくお話を聞きたかったです。
12	連携のメリット、情報・支援が一環できる。
13	それぞれの立場でポイントが絞られた発表でわかりやすかった。
14	貴重なお話で勉強になった。もう少し時間をとってゆっくりと聞けるとよかった。
15	鈴木先生のお話が医学的見地から大変参考になりました。
16	縦横の連携の大切、難しさもあるが考えていきたい。
17	もう少し時間があってもよかったかも。
18	岡さんの話は現場の生の声をきけてよかったです。鈴木先生の話はなかなか聞けない医療現場の話でとても興味があったので話が聞けて良かったです。
19	みどりクリニックのDrのお話をもう少しじっくり伺いたいと思いました。プロローグということでしたので、時間が短かったので仕方がないとは思いましたが・・・
20	プロローグの内容としては本当にポイントだけをお話いただき感謝です。
21	時間に余裕があれば、もう少し拝聴させていただきたいと思う内容でした。次回も楽しみにしております。
22	鈴木先生のお話を聞いて頭の中の知識が整理されました。

23	短時間でしたが、連携のポイントをお話しただいて大変参考になりました。
24	時間が短くてもっと聞きたかったです。
25	もう少し時間にゆとりがあると良いと思いました。
26	鈴木先生の話をもっと聞きたかったです。
27	発達支援における関係機関との連携についてイメージすることができた。
28	鈴木先生の話をもっと聞きたかった。
29	支援の多様性によるメリットを生かしていきたい。連携の大切さ⇒情報・支援の一貫性。
30	「支援」の全体像よく見えました。中卒時の「就労」へのつながりが現状では困難。現場で出会う「子」の姿と照らして理解できた。「不安を発信する力」大切ですね。
31	子どもの発達を長いスパンで見て支援する必要があると感じました。「今の大切さ」に振り回されない視点を支援者は持つべきだと思いました。
32	よこの連携、たての連携の話、なるほどと思った。
33	”連携”大事なキーワードがありました。連携するだけでなく相手を知る。支援にとってとても重要なことだと思います。
34	鈴木先生の「頭では先に行っているけれど、多動ではないADHDの子」が興味深かった。
35	「連携」大切であることは分かるが、どのようにつながり連携していくのか、保護者(本人)が希望してくれれば、まだ広がる可能性があります、難しいことも多いです。
36	時間が足りなかったため、みどりクリニックの鈴木先生のお話をもっと詳しく聞けたら良かったです。
37	時間が短かったため、もう少ししっかり聞きたい内容のお話でした。
38	連携はとても大切かと思えます。しかし形になっている(子どもの所まで結果がおいてくる)所は少ないと思えます。本当の連携を研究していきたいと思いました。
39	欲を言えばどの方のお話をもっとゆっくりとお聞きしたいと思いました。「ふむふむそれで…」というところで時間切れになってしまった感がありました。ぎゅっと濃縮されたお話が聞けました。
40	連携の大切さが分かった。
41	ライフステージに応じた内容がとても参考になった。いつもは相談者、支援者の現状に視点がいき、支援がどのようなものがあるのか検討しているが、改めて先を見通していくことはとても大切だと気付くことができた。
42	行政の方がここまで考えてくださっていることを改めて知るよい機会となった。鈴木先生のお話についても、対応目標、何を目的に支援することがよいのかを再確認することができた。
43	短い時間でポイントを絞って話していただき分かりやすかったです。
44	時間が短い。
45	特性があると知らずに苦しんでいる当事者がいたり、また特性があると診断がつくことを恐れて検査や受診を拒否したりする保護者への対応に悩みます。受診を勧められるだろうからとカウンセリングも断られ、様々な支援につなぐことが難しい状況で、親子でひきこもりにならないかと心配しています。
46	改めて連携の大切さを感じました。
47	医学的な話、発達障害、特性について丁寧に説明していただけたのが改めて良かったと思います。
48	鈴木先生のお話をもっとゆっくり聞けたら良かったと感じました。
49	縦と横のつながりの大切だがよく分かった。
50	分かりやすい概要でした。
51	俯瞰できる立場の方からのお話は興味深かった。もう少しお話が聞きたかった。
52	よいやり方でした。話題提供として分かりやすかったです。
53	連携の大切さは日々感じていました。改めて実感できました。
54	発達の特性や切れない支援について理解することができました。
55	連携の大切さを序盤で強調してくれたため、その後、各機関とどう連携ができそうか想像しながら聞くことができた。
56	もう少し時間が欲しかった。

Q3(2) 事例報告

① 健康・保健分野「保健センター・こども発達支援センターの役割と相談・支援の現況」

前橋市子育て支援課こども健診係 係長 保健師 望月 恵氏

② 福祉分野「就学に向けて幼児期の福祉サービスを活用して本人の自立を支援する」

児童発達支援センター「つくし園」 園長 秋松 宗雄氏

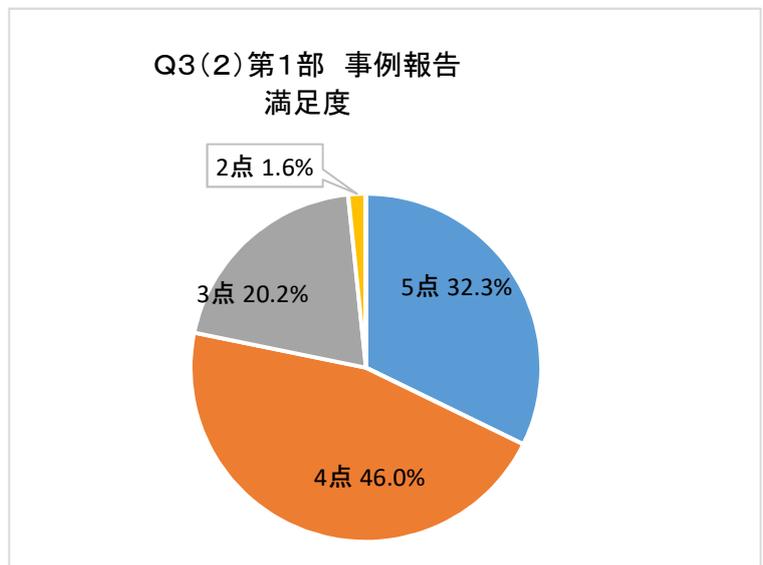
③ 教育分野「専門アドバイザーの仕事と学校支援」

群馬県立渋川特別支援学校 特別支援教育専門アドバイザー 武井 絵里子氏

④ 専門機関「児童相談所における発達支援の役割」

群馬県中央児童相談所 次長兼発達支援係長・臨床心理士 吉田 喜美子氏
進行役 石川 京子氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	40	32.3%
	4点	57	46.0%
	3点	25	20.2%
	2点	2	1.6%
	1点	0	0.0%
合計		124	



○意見・感想等

1	時間の都合で仕方ないと思いますが、お一人ずつのお話をもっと詳しくお聞きしたかったです。
2	横の連携難しいです。
3	各発表者の話をもっと掘り下げて聞いてみたい話だった。
4	各機関の役割を再確認することができた。
5	貴重なお話をありがとうございました。内部のことをよく分かっていなかった機関もあったので、改めてお話を聞くことができて勉強になりました。
6	児相では学校から連絡することで動いてもらうことが可能であること。
7	事例が具体的でとても参考になりました。
8	ライフステージごとに相談機関があり、連携を大切にして取り組んでいることはよく分かった。しかし、幼稚園(保育園)から小学校に学ぶ場が変わる段階で相談支援の引き継ぎが途切れてしまうケース、スムーズにいかないケースがあること。小・中学校において不登校となり、居場所が見つけれず、学校からは「見守りましょう」と言われ続け、具体的な助言をもらえずにいるケースが多いこと等、課題は多いと思います。対象児の祖父母、高齢の教師や保健師等、発達特性を正しく理解していない(古い価値観のまま)がために、子どもへの適切な支援を断ち切ってしまうケースもまだまだ多いです。
9	理解していることが多かった。
10	様々な立場の方からの話が聞けてとても良かったです。発表者多い分、お一人お一人の持ち時間が限られてしまうため、もう少し事例を詳しくお聞きできたらなと思いました。
11	それぞれの方のお話をもっと聞きたいと思いました。
12	保護者から相談してもらうには、この人なら話してもいいと安心してもらう関わりが必要。いろいろな立場の方がいるので役割分担をして連携することが大切だと気付いた。

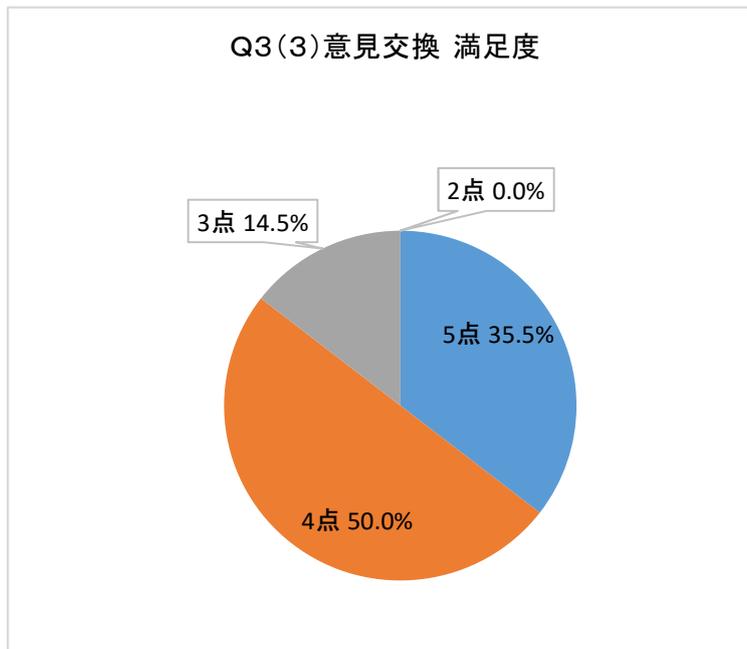
13	事例や行政の話をもう少し時間をかけて聞きたかった部分があります。相談業務を”市”の事業所から”1市5町”を取りまとめた事業所に転職しましたが、1市5町の連携といっても市町村ごとのカラーがあるので、やはり難しさを感じます。特に新しい事を始める開拓はいつまでたっても進まない面を感じます。全てはつながりますが、保育園、幼稚園、小学校、中学校の相談支援専門員の認知度の低さを連携の大切さを充分感じながらも担当者会議の理解にまで至っていない状態。業種違いの連携の間口が広がるために、どうしたらいいんだろうかとそこからもがいています。今日はとても参考になった部分もあります。ありがとうございました。
14	乳幼児期から思春期まで切れ目ない支援をしていくという点で、各分野のプロの方のお話を聞き、様々な立場の難しさがあるのだなと思いました。大変参考になりました。
15	専門アドバイザーや児童相談所が具体的にどんな視点で支援を行っているのか、事例をもとに理解できた。
16	様々な機関の方が横並びで話が聞けたので連携の関係が俯瞰的に捉えることができ良かったです。
17	それぞれの立場の人の話、それぞれの現場の話が聞けましたが、もっとじっくり聞きたかったのですが、時間が足らずそれが残念でした。
18	連携をとることが大事だと改めて実感しました。
19	4機関の話が聞けて良かった。つくし園の秋松園長の頭の中にある話はもう少し聞きたかった。
20	事例の紹介は具体的にイメージでき参考になりました。
21	つくし園の秋松園長先生と渋川特支の武井先生のお話が参考になりました。
22	時間的なもので仕方ないと思いますが、もっとそれぞれの方から事例を詳しくお聞きしたかったと思いました。
23	それぞれ豊かなご経験がある方々でしたが、時間が短くて残念でした。いろいろな話を聞くことができ良かったです。
24	子どもが困っていること、その内容に気づくことの重要性を改めて感じました。
25	もう少し時間にゆとりがあると良いと思いました。
26	4人の方々から盛りだくさんの情報提供があった。情報量に対し発表時間が少なすぎたと感じた。
27	事例がたくさんあって分かりやすかった。
28	時間が足りず、ケースについて深く考えられなかったことが残念。
29	不登校の問題に悩みながら別室登校する生徒と関わっています。中学生の本音を聞くことがなかなか難しいので、問題解決につながりません。もっと専門的な知識が必要だと感じました。
30	児相の事例「医療、放課後デイへのつなぎ方」の話、支援者に大切なお話です。現場は支援機関を知っていても「どうつながるか」で苦心しています。「つなぎスキル」についてSSW等に助言してもらえばいいのでしょうか。多忙感の中でそこに至ることも難しい場面が多いです。
31	保健センターや児相のお仕事について改めて全体像について知ることができました。
32	あまり深まった事例報告がなかったので、もっとよく聞きたかった。
33	前橋市の子ども支援がギュッとまとまっていることを知り良い試みだと思いました。意思疎通ができるような関わりをするためには保護者との情報共有が大事なこと。内面を言語化するためのアイデア、気付き、その子を見てなければできないこと、就学前に気をつけなければ、うんと伸びるチャンスだと思うので早期発見、早期療養大切だと思います。顔を合わせての情報共有はすごく大切です。
34	各機関がやっていることは分かったが、それぞれの持ち時間が少なく、全体的に急いでいる感じでじっくり聞けなかった、もう少し具体的な事例をもとにした報告を聞きたかった。
35	どのように対応したか具体的に知りたいと感じたこともあります。保護者が子の特性に気がつく、困り感を持つ…そこから始める場面も少なくありません。多くの方々と関わり、少しずつ支援の方向に進むには時間がかかりますが、相談できる機関が複数あることはいいことだと思います。
36	もっと事例の話を知りたいです。
37	どの方の説明も良かったです。時間が足りずあまり事例が詳しく聞けなかったのが残念でした。
38	いろんな分野からの事例報告があり、知らない役割もあったので新たに気づくことができました。
39	各機関の内容を知るのはとても大切です。しかし、実務で連携する際には間違った知識を持っていたりします。協働できる形、その例を重ねていきたいです。
40	保健センターの業務内容の説明が多すぎた。事例についてもっとじっくりお話を伺いたかった。つくし園の話、不登校になるまで診断を受けていない子どもの多さに驚いた。事例の話を知りたかった。専門アドバイザー、事例がしっかり書いてあるので分かりやすかった。児童相談所、事例が良かった。学習の遅れや虐待のケースから発達障害の可能性を発見し、検査、医療につなげるところが素晴らしいと思った。
41	前橋市の取組はとても参考になった。また小学校の不登校が増えている現状について、どのような手立てが必要か、改めて考えるきっかけになった。児童相談所の事例はとても参考になった。
42	事例をもっと聞きたかった。もう少し各自、時間があると良かった。

43	各所の業務役割が分かり連携する際の参考にしたいと思います。
44	時間がもう少しあると良い。他職種の取組、どんな仕事内容か理解する前に終了してしまった。
45	情報量が多すぎて時間が足りない。時間を増やすかもっと絞って話をしてもらおう。
46	どの先生方の話もとても分かりやすかったです。改めて児相の役割が確認でき、もう少し児相への相談の促しをしたいと思います。
47	様々な職種、働きの内容、具体的なお話が聞いて良かったです。4人の方のお話を聞いて、どの内容もとても興味深かったです。その反面で一人一人の方のお話をもっと深くまで、もう少し長い時間のお話をいただきたかったです。つくし園の先生のお話から巡回で見に行った子より、他に目につく子ももっとというお話。私の職場(学校)でもそうです。特別支援学級に在籍している子より、クラスの中にいる子の方が問題を抱えている場合が多いと感じます。そういう子を気にかけて、声かけ、支援していきたいと改めて思いました。
48	「大きなサンドイッチが食べられない」など、自分の思いを伝えられず困っている子がいることが具体的に分かって勉強になりました。パセリとは想像できませんでした。
49	連携の重要性に共感できた。学校、家庭が何を望んでいるのか、事例による深い考察を期待します。「本人を含めた連携」大切にしたいです。
50	それぞれの時間が足りなかったように思いました。
51	時間が足りずもう少し詳しく聞きたい事例が多かったです。
52	それぞれの職場や内容が分かりました。連携が大事なものは全ての人が分かっていますが、現実的になかなかインフォーマルまで含めてできていない気がしています。
53	つくし園園長先生のお話、もっと詳しく伺いたかった。
54	特性のある娘は27歳ですが、お話を聞いて理解は深く持っているつもりでしたが、更に理解が深まりました。
55	具体的な事例がわかり、課題になっていることについてもお話があり参考になりました。
56	いろいろな立場(母子保健や福祉、学校教育、児相)からの考えと具体的な事例を知ることができて勉強になりました。また各機関の仕組みの特徴も簡単に知ることができて良かったです。
57	前橋市の連携の強さがすごいと思いました。利用者の方も安心できると思い、作りもすばらしく羨ましかったです。
58	普段関わらない機関だったり、何となく知っているけど理解できていない機関について知ることができた。今後、関わりを持たずに過ごすかもしれないが”知ること”が「大事だなと思った。登壇した方の言葉に励まされたり、共感したり、いち支援者としてつながっていただける安心感を感じながら聞いていました。
59	もう少し詳しく聞きたかった。

Q3(3) 意見交換「玉村町における健康福祉分野と学校教育との連携について」

- コーディネーター：NPO法人リンケージ理事長 石川京子氏
- 助言者：鈴木基司氏、岡直矢氏
- 事例報告：「～玉村町～健康福祉課（保健セ）・子ども育成課、学校教育課」
玉村町役場 健康福祉課課長補佐 畑中哲哉氏 ほか5名
- 登壇者：望月恵氏、秋松宗雄氏、武井絵里子氏、吉田喜美子氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	44	35.5%
	4点	62	50.0%
	3点	18	14.5%
	2点	0	0.0%
	1点	0	0.0%
合計		124	



○意見・感想等

1	特別支援学級の担任ですが、鈴木先生がおっしゃる軽度、境界線の人に当てはまる人を担任していると思います。いつでも連携できるように、また、うまく連携していけるように、自分の持っている情報についてももっと整理しておきたいと思いました。
2	玉村町の取組も素敵だったし、各方面から意見を話していただきすごく参考になった。
3	貴重なお話たくさんありがとうございました。同じ思いをしている人がこの会場にたくさんいるのだと感じました。連携すれば大きな力になるはずです。上手くいったことを… というお話で勇気をもらえました。
4	連携の具体的な実施例を知りたかったです。他の自治体の取組も
5	SC, SSWを上手く使うことで保護者との連携を図ることができることを知った。
6	特性が軽度であればあるほど一人の相談者で抱えきれない。複数で対応することが大切である。⇒心に強く残りました。教員、保健師、地域の放課後支援等に関わる人等において子どもの発達特性や発達障害について正しく理解していない人が多い。昔の古い知識にとらわれたままである。正しい知識の周知も大切であると思う。
7	鈴木先生が言ってくれたこと、認めたくない親(我が子は普通)、正にそのとおりだと感じていたところでした。その上でもう少し突っ込んだ話(誰がどうすべきかという具体的な話)まで意見交換できるとより良かった。
8	子どもの見取りを記録に残すとき、通知表の所見の書き方を参考にすると良いという視点になるほどと思いました。
9	いろいろな所属の方の話を聞くことができて良かった。
10	玉村町のチームワーク素晴らしいと思いました。規模感が変われど「にじいろファイル」のようなシステムを組織内でも作れればと思います。
11	にじいろファイルによる各部局での情報共有を行う取組が参考になりました。
12	連携の大切さと改めて連携の難しさを感じる研修だったと思います。
13	それぞれの立場から提言を聞くことができた。今後の仕事で生かしていこうと思います。
14	鈴木先生のお話は支援を考えるうえで大変参考になった。

15	「他機関と連携するために情報共有していいですか？」と親御さんに言う。母親と一对一の生活の中では、子どもの発達障害は見えないことがある。にじいろファイルへの書き込みにマル秘の内容は肯定表現で書くようにすると良い。関係機関が連携し、相談者が何度も説明しなくて良い体制にしていなくては
16	私が所属する自治体でも「にじいろファイル」と同じようなサポートファイルがありますが、自分自身も意識が低く、自分の担当のお子さんに提案や持っているかの確認をしていなかったと改めて思いました。今日の意見交換を聞き、自分が得た情報が次の関係機関につながられると、よりその子に対してのサポートが引き継がれると思いました。研修が終わったらサポートファイルについて確認してみます。
17	にじいろファイル的なものを県で統一できないか。
18	玉村町の取組の熱意が伝わってきました。具体的な取組が分かり良かったです。
19	一つの事例について、それぞれの先生からそれぞれの立場の視点をうかがえたのはとても参考になりました。
20	最後の石川先生のまとめが一番分かりやすかった。まずはその機関でスタッフ同士がきちんと共有・フォローし合っているのか気になります。
21	連携の大切さを痛感しました。
22	玉村町の取組がよく分かった。質疑応答の時間がないのはもったいない。
23	玉村町の支援ファイル、私の勤める町の個別ファイルがありますが、現実継続利用は難しいですね。成人になり障害者年金申請の時、お母様が亡くなり情報不足に困るケースがあります。支援ファイルがあったはずですが、保管し続けることは家庭においては難しいですね。取りあえず「とっておいてね」と伝えたいと思えますが。
24	様々な立場で意見を聞くことができ参考になりました。玉村町のにじいろファイルは参考になりました。
25	「にじいろファイル」はとても良いものだと思う。活用したい。
26	役割分担そして言いづらいことも伝えていく必要を知りました。チームが大事。
27	玉村町のにじいろファイルはとても素晴らしい取組だと思う。支援する側も手間がはぶけると思った。
28	保護者が子どもの真の姿(能力・特性、グレーゾーンのためか?)を受け入れていない場合。保護者自身に特性が強く、コミュニケーション・連携がとれない。学校は振り回されている。
29	情報共有の大切さ、一貫した支援のためにはヒントになる情報量が多い程、スムーズにできるだろうと思います。日常的に顔の見える関係が作れている玉村町の取組は素晴らしいと思います。
30	「にじいろファイル」の取組はとても良かった。切れ目ない支援を実践する上で貴重な実践だと思う。玉村町の各機関のチームワークがとても良いと感じた。
31	「にじいろファイル」があるから学年が変わる前に担任が代わったらすぐにそのファイルと見ておかないというプレッシャーになりそう。学校現場では年度末年度初めが一番多忙、ファイルがどこかにいってしまいそう。2学期になってようやく、そういえばあれに書いてあったね、ということになりそう。やっぱりファイルも大事だけどつなぐ人が一番大事なのかなと思っている。現在では知りたい時に知りたい人が「あの人に聞けば」という人がいるのがとても心強い。学校の中での情報共有もまだまだままならない状況なので。
32	行政の中や支援事業所が一人の子ども(支援を必要としている人)を核として円陣を組んで支援していくことの大切さは改めて感じました。しかし支援する軸となる人(信頼関係を築いていることはベース)も必要となると感じました。
33	安中市にも「支援ファイル」があり全員配布となっています。就学時検診の際、入学する小学校に持参しますが、活用という意味ではもっと活用できる方法があるのではと感じています。市でどのように相談をすすめたか、保護者が何を困っているのか、より連携した体制が確立するといいなと思うとともに、学校として何ができるか考える機会となりました。
34	小さな町村では連携しやすい。マンパワーがある大きな市ほど、自分たちで全て支援を行おうとしたり、福祉と教育が分離しているように感じている。
35	軽度な特性の子については対応が難しいということに大変共感しました。具体的にどう対応したら良いかはあまり見えてこなかったです。鈴木医師の国の制度・教育体制への言及があったのが良かったです。
36	夢のような話ですが、玉村町のお子さん全てに配れたらすごいですね。(育ちのポートフォリオとして)勿論、ある程度の改訂と個人ファイルの両立は必要かと思えます。また、新しく加えるのではなく、学校で使えるものにできると全国に自慢できると良いと思えます。(本気でやれば2、3年でできます)

37	「にじいろファイル」の活用について皆さんで意見交換した事は実りがあると思った。軽度の障害の方が、共通認識の難しい事を認識すべきだという鈴木先生の話に納得した。複数担任制にも共感できた。
38	玉村町の話はとても参考になる反面、どのように活用していくのか、適切な支援につながるのか気になった。様々な分野の専門家の話を聞いていて、なるほどと思うことが多々あったが、学校現場でのケース会議でここまで活発な検討ができるといいとも感じた。
39	玉村町の取組は素晴らしいと思った。他の市町村の連携の様子、取組の様子が分かるとありがたい。
40	ファイルがあることによって連携が取りやすくなると思いました。
41	高校生からの就学に向けて情報が共有されず途切れること、中学校からの情報もほとんど共有されないことが多い。生涯を一貫したサポートができるよう支援内容を検討されているのが玉村町の素晴らしいところで、他市町村もそうなるのが必要なのだと思った。
42	玉村町の取組(にじいろファイル)を初めて知りました。全県で統一できるといいと思いました。
43	「にじいろファイル」もっと活用して欲しいです。これが全ての生徒に配られたらもっといいのに。
44	横の連携の大事さが多く聞かれ必要性を感じた。確かにステージごとに情報が分断されてしまっている状況にある。軽度の子へ継続支援について考えさせられました。
45	子どもと家族を中心に大人がチームを作って支えていきたいと感じた。
46	玉村の取組参考になりました。ただしテーマの大きさに対して時間不足、もう少し話題を限定して担当者の経験を聞きたい。
47	行政は縦割り過ぎると思っています。
48	それぞれの立場から連携についての意見を述べられており、みんな必要性を感じている。
49	支援計画を活用し成功した事例を幼児期～成人期まで、それぞれの担当者を中心に紹介して欲しい。学校ではその所属期間のみしか知ることができないので、将来を見通した支援をしたいと思います。
50	現場で本当に連携できる仕組みが欲しいです。
51	にじいろファイルへの助言というテーマでしたが、その中で各関係機関で求めている情報や連携のコツをお話しいただいたので、とても学びになりました。参考にしながら業務を進めたいです。
52	支援者が家族や本人を置いてけぼりにしないようにつながりつつ、本人・家族と関わることを忘れないで仕事したい。玉村町の支援者のつながり方が素敵。

Q3(4) 研修会テーマ全体の感想

テーマ「発達の特徴を持つ子ども・若者の社会的自立を支援する」

～ ライフステージに応じた切れ目ない相談支援の実現に向けて（乳幼児期・学齢期編）～

○意見・感想等

1	大変勉強になりました。ありがとうございました。
2	石川先生の最後の言葉が胸に響きました。
3	遠い所からの参加なので16時まででに終わりにしていただけるとありがたいです。内容が盛りだくさんで、石川さんが言うとおりに吸収するのが難しい。
4	難しい子、困った子ではなく、その子の周りにチームを築いて対応することで上手くいくのではないかと思った。
5	数的に確かに多くなっているように感じている。多くなっている訳でなく気づくことが増えたのかもかもしれない。子ども・家庭を中心に連携が組めると良いと思う。
6	改めて大切なことをたくさん教えていただいたと思います。ありがとうございました。もっとリアルな現場の声、事例をたくさん知れるといいなと思いました。
7	学校だけでなく、本人、保護者との連携が大切。
8	切れ目ない支援をするための手立て、上手くいったケースを経験しそれを生かすこと、必要な子には1体1の対応を保障してあげること等を知ることができた。今後の仕事に生かしていきたい。
9	早い段階でどう保護者に理解してもらい支援につなげられるかがポイントだと感じます。またそれをどのタイミングで誰がするのかという具体的な話も今後して欲しいと感じました。
10	特徴を持つ子どもの高校卒業から社会につながるまでのサポートについて知りたくまりました。幼少期は充実していますが、是非その後の対応について知りたい。
11	「支援者の言動(支援)が一致していることが大切」ということを改めて感じました。様々な機関につながっていくことが当事者の安心にもつながっているのだと思います。
12	よく連携が大切だと言われているが、今日の研修を受けていろいろな立場の方から話を聞くことで自分のこととして考えることができた。他機関と連携を取ることはなかなかハードルが高いが積極的に取り組んでいきたい。
13	大変参考になる部分がありました。ありがとうございました。
14	外部の機関との連携のしかたについて非常に難しさを感じます。組織内ですら、その子が問題を起こさなければ重要視しない方と、重要視する方とで意見が合わない場合があります。今後は個人でできることをやりながら、その子を救うためにもっとやれることがあるのではという視点でやっていきたいと思います
15	一つの部局が持つ機能や情報には限りがある。様々な機関、人が関わって支援していくことが大切だと改めて感じました。就学前、特性が小さい時期からの適切な関わりの必要性を感じました。そこに本人と保護者も一緒になって考えていくことが大切だと思いました。
16	連携といつつ今まで難しさを感じていましたが、まずは自分の立場で積み重ねていく情報が何か、考えることが大切であると感じた。
17	2部のまとめで、県の岡氏のコメントにあった各機関での成功体験の事例集を誰か作ってくれないかなと思いました。様々な機関の方が深く関わったおかげで助かった子が多くいることは分かっていますので、学校以外の多くの機関が関わったおかげで救われた子の例を多く知りたいと思います。
18	一人一人の方の話をもう少しゆっくり聞きたかったです。横のつながり縦のつながりを大切に連携して支援していければと思います。
19	一貫したアドバイスで相手を混乱させない支援が必要だと感じました。
20	支援が難しくなるのは思春期の子どもたちで、二次障害を起している場合だと思います。この時期のお子さんへの支援について、事例を含めてもう少し長い時間を割いていただきたいと思いました。
21	担当者一人が抱え込むのではなく、チームで対応していけることが最高である。
22	乳幼児を担当している中で、この時期のこどもの発達支援はこどもの様子と保護者の思いを踏まえて行うので、うまくいくこと、うまくいかないこと、日々どうしたら良いかを考えながら進めています。特に我が子の発達特性に対して受け入れがよくない保護者にはどんな説明、どんなことを伝えるべきかが難しいなと感じています。しかし、乳幼児の頃からこどもの特性を理解してもらい、一貫した支援とこどもが安心して社会に出られるように次につなげていくことが大切だと改めて思いました。
23	高校での通級指導教室をもっと利用しやすくしてもらいたい(手続き、申込みなど)認知を広めたい。

24	軽度の発達障害を持つと思われる生徒が多く入学しています(高校教諭です)。その生徒たちの支援の難しさの理由もよく分かり腑に落ちることがたくさんありました。一方で周囲(教員)の理解や保護者の理解が難しいことに対する解決策がなかなか見つからないことを再確認しました。学校の人員配置や支援体制の変革を望んでやみません。
25	もっとじっくり詳しく掘り下げる研修会を求めると嬉しいです。
26	ライフステージに応じて様々な機関が子どもやその保護者のために考え、サポートしていることが分かり改めて連携の大切さを感じた。
27	石川さんの口調がとても好きです。
28	普段、母子保健(就学前まで)のお子さん、保護者と関わるため、発達特性の知識に加え、その後の支援も踏まえて、流れを考えることができ良かったです。
29	SSWとして勤務しています。とかく一人で抱えてしまうことが多いですが、周りの関係機関と連携し、多角的に支援を考えていこうと思います。
30	学校がもっと開かれた場所であってほしい。
31	様々な立場・役割の方々から意見・話を聞くことができ、学ぶことが多かったです。
32	「何のための連携か」を共通理解することが大切。
33	発達特性をもつ子どもの保護者、県立高校の職員等、様々な立場から話を聞かせていただきました。残念ながら県立高校に個別の支援計画が引き継がれていません。また個別対応が多すぎて、正直現場の先生は困っています。保護者としては学校にお願い(配慮)をどこまですれば良いのか?と感ずることがあります。
34	連携についてもう一度考える機会をいただけました気がします。
35	複数の機関で連携して支援した事例をもう少し聞きたかった。困窮世帯の子どもはフリースクールなどお金がかかる選択肢を選ぶことができないことが多いため、ひきこもりにならないようできるだけ多くの選択肢を与えられる制度や支援ができると良い。
36	多方面からの支援者が必要な場合、やはりいろんな支援者との情報共有は必須なので、にじいろファイルのようなものがあると共通理解ができるので良い取組だと思いました。
37	秋松先生のおっしゃった特性、その子どもの多さに対して保育園のみで対応しては… 連携をどうやっていくか、そのあと言葉が繋がらず課題を感じた。
38	以前、保育園に勤務しておりました。現在は行政に入り仕事をしておりますが、連携の必要性を日々感じながら支援にあたっています。保育園はお子さんの情報、保護者の情報、たくさん持っておりますが、なかなか発信できないこともありますし、連携のやり方が分からないのではと思います。保育士が支援方法等、具体的に知れると関わりがまた違うと思いました。
39	軽微な発達特性を持つ子どもに対しては、保護者も担任もなまけや我が儘と捉えてしまうことで困り感が子どもも周りも増えてしまい、上手いいかないケースが多々あります。本人の内面にある思いに気付いてあげられる力とヒントになる情報を共有していけること、すごく大事なことだと思いました。
40	乳幼～学齢期～青年になるまで、その子を知っている部署や人がいるととてもやりやすい。その場合、子ども課に長年いることになるから行政としては難しいのだと思うけど、担当の人が代わると現場はなかなか混乱します。
41	連携の難しさや大切を実感させられました。
42	良かったです
43	とても良かったです。早足でしたね。
44	切れ目ない支援の連携は、軽度も重度も必ずしていくことが大切だと思いました。
45	親や乳幼児期の環境が大切であるが、障害が固定されたものとして捉えられ、社会性等が成長していくという観点が乏しいと感じた。親支援、園支援を強化しないと学校で不適應を起こすのは増加の一方だと思います。
46	連携を考える内容の研修のため、大変有意義の内容でした。
47	母親一人で悩んでいることもある。父親の役割も具体的に教えてもらいたいです。よろしくお願いします。
48	改めて連携することの大切さを感じました。
49	皆さん連携のイメージはあるのですが、さまざまなパターンの好事例をコツコツ積み上げたいですね。
50	盛りだくさんの濃い内容だったので、あっという間でもっともっと聞きたいと思うお話がたくさんありました。ありがとうございました。
51	乳幼児期～思春期・青年期のつながりを感じた。にじいろファイル参考になった。
52	第1部は4人の講師の先生のお話で時間に追われて可哀想な方もいた。要点が絞れきれずに中途半端になっているものもあり残念。第2部ではリラックスした雰囲気の中で率直な意見交換がなされていて充実感があった。
53	連携することの大切さに改めて気付くことができた。同じ視点では限られたことしか気付くことができない可能性がある。適切な支援のためにはいろいろな立場の意見を参考に検討していく必要があると感じる。ひきこもり支援について具体的な事例をもとに細かく聞きたかったです。

54	大変学び深い時間となった。行政というと冷たさ、相談しても上手く機能しない印象が強い。しかし、本日出会った行政の方々自身の業務に熱意を持ち、とりこぼしなく対応する姿勢をしっかりと持ちの方々がであった。全ての行政の方々为本日登壇された方々の方々と大変ありがたい。
55	最終目的(社会的自立)に向けて、各段階で何が必要な支援かを明確にし、それぞれの役割を果たしていけるよう連携と早期療育に努めていきたいです。
56	情報共有、連携とかの部分具体的なものとして学ぶことができた。
57	検診の話から不登校・ひきこもりの話までボリュームが多く、話し合う切り口が難しいと感じた。せっかく石川さんが進行役をしているのに、参加者が多く、石川さんの良さが十分に味わえなかった。
58	子どもの友だちをみても、小学校まで何も困り感がなく登校していた子が、中学に入学した途端不登校になり「え？あの子が？」と周囲が驚いています。中学の先生も一生懸命なのに中1ギャップをはっきり感じました。もともと持っていたものがこのタイミングで出たというのが多数なのでしょうが。
59	母親(家族)がどこかにつながつて欲しいと常に思っています。困り感を発信できない家庭がまだまだたくさんあると思っています。
60	若者の社会的自立を支援するというテーマ(次回ですか?)にはとても興味を持ちました。また、身近な事例、成功事例、失敗事例を取り上げていただけるとより分かりやすく、自身の職場に持ち帰ったときに反映させられると思いました。
61	何に困っているのか伝えるのが難しいということを知ることができました。
62	縦と横の連携が大切だと改めて感じた。
63	今回の研修で連携の大切さ、目的、方法を具体的に理解し、今後の支援に生かしていきたいと思った。
64	玉村町の取組に大きな希望を感じました。また情報共有の際の保護者の同意の取り方、問題提起する人とフォローする人の連携についてもとても参考になりました。ありがとうございました。
65	時事問題として施設での虐待、職員の精神保健、雇用改善についての研修があると嬉しい。
66	より深い話を聞きたいと思いました。
67	すべての子どもたちが安心して生活できる世の中になればいいと思う。
68	保育園や学童に専門家がない。連携で他職種でチームで保育したい。個人的にOT(作業療法士)との連携を試みています。
69	支援していくにあたり、支援者の理解不足、知識不足を感じている。保育士から「何にも心配ない」と言われ療育につながらなかつたり、支援学級に進学したが担任から理解されず不登校になる児、関係者は全て支援員という自覚が足りないと思える。群馬県は一部だが情緒支援級の担任ですら発達特性を理解していない。関係者の支援者教育を充実させていただきたい。特に学校。
70	各機関の役割、実践が聞けたので今後の支援の仕方にプラスになりました。
71	連携に重きを置かれていて有意義な時間でした。
72	発達の特性のある方でも手続きしやすいシステムが大切だと思いました。そこにつなぐ支援も必要だと思いました。
73	大変参考になりました。普段関わる年齢よりも低いため知らないことが多かったが、知ることで支援方法に幅がでるように感じた。
74	特性の軽度の子どもへの対応の難しさを改めて感じました。
75	とても内容が濃い研修会だったので、もう少し時間をかけ2回に分けるとか、小さな交流会で交流したい(連携には必要だと思うので)
76	にじいろファイルのような同じツールを作る。思うことは情報共有、連携の一つの方法・手段と思いました。

Q4 次回研修会への期待

来年度は思春期・青年期の「進学」「就労」を取り上げます。
 どんな内容を期待しますか

○意見・感想等

1	相談したい時、どのような機関があるか、高校入試に関する情報、一日の研修になっても良いと個人的には思っています(とても勉強になる研修会なので)が、時間に限りがあると思いますが、事例や情報を詳しくお聞きすることができると思います。
2	上手く進めない子にはどんな対応ができるか
3	子どもの特性に応じた進学、就労の具体的な事例を多く知りたい。
4	就労について
5	進学・就労の実態の具体的な話・課題。その課題を解決しやすくするために義務教育段階でしておくべきこと。
6	発達障害を抱えて学力的にも大変な思いをしている生徒を実際にたくさん見えています。具体的に本人や保護者、職員(担任)にどのように働きかけていけばよいかを知りたいです。
7	群馬県主催の研修会ということで、具体的な進学先、就労先を教えてくださいたいです。
8	進学や就労したが途中で辞めてしまった人への支援、その事例。
9	具体的な事例を聞きたいです。
10	「就労」後にどんな支援が受けられるのか。高等特別支援学校を卒業の場合「高卒」の資格がない。「高卒」の資格をとるためには「通信」等の方法があるが、在籍中に何か良い手立てがないか。また、さらに上級学校に進学したい場合はどんな方法があるのか。
11	ありがたい内容です。できることなら参加したいです。
12	高校卒業後の支援体制を知りたい。
13	先の情報、「進学先」「就労先」とのマッチング(保護者、当事者)について
14	能力は高いが、その特性の為に「支援級」にいるが、支援級の内容が簡単すぎて学校がつまらなくて不登校になるケースがある。このような子の進学先、就労先はどのように選択していけば良いのか難しいところである。
15	高校在籍中から心配な生徒はジョブカフェ等につながる事ができると聞いたことがあります。具体的な事例・取組がうかがえるとありがたいです。
16	学校卒業後の支援
17	ヤングケアラーの問題も扱って欲しいです。
18	保護者との関わり方について。
19	具体的なケースをしっかりと学びたい。関係機関がどんな役割を担ったか。
20	発達障害、不登校・ひきこもり状態の青年に対する進学・就労支援
21	中卒後の進路、関係機関との連携を何とかしたいところです。今年、不登校の生徒がやっとの思いと見学・受験した「サポート校で不合格」が複数あります。県内の中学校では想定していないことが起き始めています。中卒後の就労支援、ハローワークの役割が見えない。
22	就学時に必要であれば診断書を書くよと子どもの主治医から言われていますが、本人に有利なのか？どうすれば良いのか？発達特性をオープンにできる社会なのか？保護者としてはそのことについて意見を出していただくと幸いです。
23	思春期のようですが、その頃の保護者も更年期で大変だと日々感じています。家族まるごとの支援も必要だと思っています。
24	ひきこもり等で本人との接触が難しいケースの対応について。課題を抱えた若者の就労支援を行っている機関の情報(一覧)、就労に関する事例、経済的に困窮している若者(世帯)への支援や制度。
25	具体的な事例⇒支援⇒進学・就労までの流れを多く発表していただくと参考になります。
26	具体的な支援の成功例などを聞けると良いと思います。
27	フリースクール、通信といろいろな道を選べるようになってきましたが、そこにたどり着くことができない人たちもいます。そういう人たちにどのような支援ができるのか学びたいです。
28	発達特性のある生徒を就労につなげていく学校の取組、就労後の状況(就労した先の会社側からの発信が聞きたい)
29	楽しみです。先が見える支援で保護者の安心感につながるので。
30	不登校・ひきこもり等の進学・就労支援。
31	思春期の大変さ、学齢期まで放デイなど施設が多いが青年期以降の施設が減ること。
32	知的にグレーゾーンであったり、発達障害が疑われる所があるけれども診断がない生徒は、進学することも就職することもできず、進路未決定になってしまうことがあり、学校での対応が難しい。保護者の理解が無い場合は尚一層難しい。
33	正しい情報を各関係機関が持てるようになることにつながってほしいです。小中高特支を含む、学校教育課や障害政策課、労働政策課、労働局を巻き込んでほしいです。

34	学校教育を受けるくりの中では支援が受けられる仕組みになってきたように感じているが、就労の所での温度差、そこからの厳しさを感じる。
35	やはり具体的な事例についてじっくりお伺いしたいです。講師の方々の消化不良にならないような時間設定をしていただきたいです。
36	進学先、就労先につなげるまでの行政等の連携について、また必要な力の育て方、支援方法について。
37	ケース会議の開き方、行政と学校の連携の取り方。
38	進学・就労をテーマにするなら、就学前や義務教育前期のことはあまり扱わず、しばって発表者をお願いして欲しい。テーマに沿って話し合いする場を共有したい。
39	中学で不登校後、サポート校や通信制に進学した場合の支援について知りたいです。スクールカウンセラーがいるのか、福祉にどうやってつなぐのか等。発達の特徴を持ちながら全日制の高校に進学した場合のサポート、通級について知りたいです。石川先生の司会に何度もグッとくるものがありました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
40	トラウマ、インフォームドケアの重要性。
41	学校から社会へのつなぎについて現場の話を聞きたい。
42	発達障害を持つ生徒の進学先や就労先など、それまでに身につけさせておくべきこと。
43	支援計画を活用し成功した事例を幼児期～成人期まで、それぞれの担当者を中心に紹介して欲しい。学校ではその所属期間のみしか知ることができないので、将来を見通した支援をしたいと思います。
44	就労に向けてどのような力を養っていけばよいか。
45	どんな支援機関があるのか、中退者の就労支援、18歳時にひきこもりの方の情報をどこにつなぐか。
46	特に就労については、いろいろなサービスを知りたいです。今回のような実際の実例を通して支援を学びたいです。
47	支援者として経験もなかったりで、相談者に助言すべきことが分からない(知らない)ことがあるので、その辺のポイントを学べたらと思います。
48	「親が子どもを応援する」ということ、親子の距離感、子が親から自立するということ、親と子が考える自立について。思春期心性。
49	県内市町村の支援(関係機関)が分かりやすいマップを作成してもらいたい。